

令和4年11月16日

正和会視察報告

報告者 山崎貴裕

【日時】 令和4年11月16日(水) 15:45～16:45

【場所】 福生第一中学校 7組

【参加者】 石川義郎、山崎貴裕、小林貢、小澤芳輝、佐藤弘治、幡垣正生、武藤政義、串田金八(議席番号順)

【目的】 福生市教育委員会では不登校生徒用のための新たな学びの場として、福生第一中学校「7組」を開設している。ここに通っている生徒に対し、どのような環境で、どのような教育が行われているのかを視察した。

【概要】 令和2年4月に、福生第一中学校の7組として開校した。この特例校は、「不登校児童生徒を対象とする特別の教育課程を編成して教育を実施する学校」であり、令和4年において全国で21校が設置されている。内訳は公立学校が12校で私立学校が9校となっている。東京都では公立学校5校、私立学校が4校設置されている。福生一中7組は分教室不登校特例校として都内では2番目に設置され、この視察時では、1年生3名、2年生5名、3年生10名の計18人が通学している。1年目は10人、2年目は5人の卒業生を輩出しており、卒業生全員が高校に進学している。



メイン教室通路もゆったりとしている。左端後部にはホワイトボード。

【学校生活】 登校時間は午前9時、朝読書、学活と続き、リフレッシュタイムと題した保健体育の時間としてストレッチ、コーディネーショントレーニングが行われ、その後、通常5時間の授業が行われている。メインの教室は前後にホワイトボードやテレビモニターが配備されて前後で分かれて別の学年の授業が展開されている。そのほか主に英語や社会の授業が行われているサブ教室があり、職員室も2室ある。

授業は、生徒一人一人に応じた学習レベル、学習量、学習ペースで行われ、正規の教員により展開され、教室内には「中学生 学び方スタンダード」がきちんと掲示されている。

また、給食は市内小中学校と同じく、防災食育センターから配達されるものが出されている。



メイン教室の一角にある図書室は畳の和室。

サブ教室では、英語や社会を中心に授業が行われているとのこと。



【所感】

福生市教育委員会は、「すべてはふっさっ子の未来のために」を合言葉とし、魅力ある学校に向けて全力で取り組んでいる。福生一中7組は、不登校の生徒が社会的に自立できる力を育てていくために、生徒の状況に合った独自の教育課程を編成している「新たな学びの場」として作られた。説明を頂いた市教育委員会職員からの話のなかで、「ここ(7組)に、生徒がいる(登校している)ことが成果です」という言葉がこの7組設置の全てを物語っていると感じた。

